

赤穂市 調査結果報告書

1. こども・若者に関する調査
2. 子どもの生活実態に係る社会資源調査

令和 6 年 9 月
赤穂市



目次

調査の概要	1
こども・若者に関する調査	
自身の状況について	3
普段の生活について	5
「居場所」について	6
家族、友人等とのかかわりについて	8
自身の今・将来について	15
こども・若者の意見反映について	18
ヤングケアラーについて	22
子どもの生活実態に係る社会資源調査	25

調査の概要

1. こども・若者に関する調査

(1) 調査の目的

「赤穂市こども計画」の策定にあたり、こども・若者が抱える不安や悩み、将来に関する考え、市へのニーズなどをよりの確に把握し、今後のこども・若者の育成支援に関する施策の参考とすることを目的とする。

(2) 調査の対象

市内に住所を有する15歳（高校生年代）から39歳の方の中から、無作為抽出した1,000人

(3) 調査の方法

郵送配付、WEB回収

(4) 調査の期間

令和6年6月21日～7月12日

(5) 回収結果

配布数 1,000件 回収数 219件 回収率 21.9%

2. 赤穂市子どもの生活実態に係る社会資源調査

(1) 調査の目的

先般実施した「子どもの生活実態調査」の結果を補完するとともに、今後必要となる支援を検討するうえで、子どもと日々接する機会の多い学校園所や事業所等から率直な意見を聴取することを目的とする。

(2) 調査の対象

子どもと日々接する機会の多い学校園所や事業所等

(3) 調査の方法

郵送による配付・回収、一部メール回収

(4) 調査の期間

令和6年6月21日～7月12日

(5) 回収結果

配布数 71件 回収数 69件 回収率 97.2 %

3. 報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えます。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記しています。

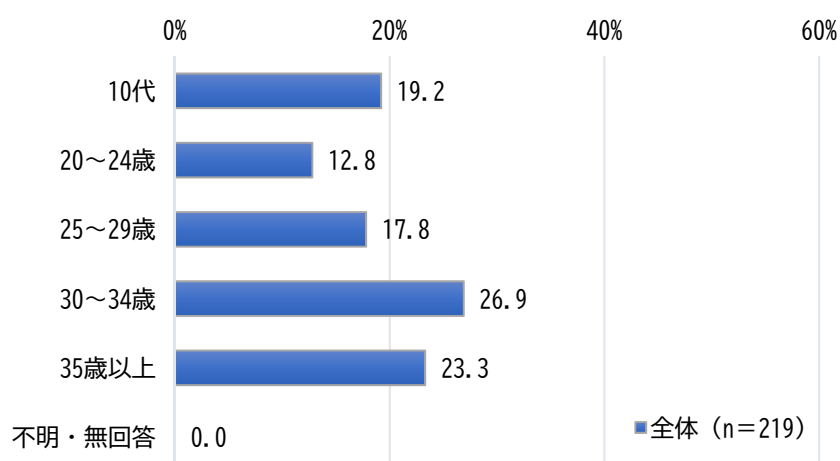
子ども・若者調査

自身の状況について

問 1

令和6年4月1日時点でのあなたの年齢を教えてください。

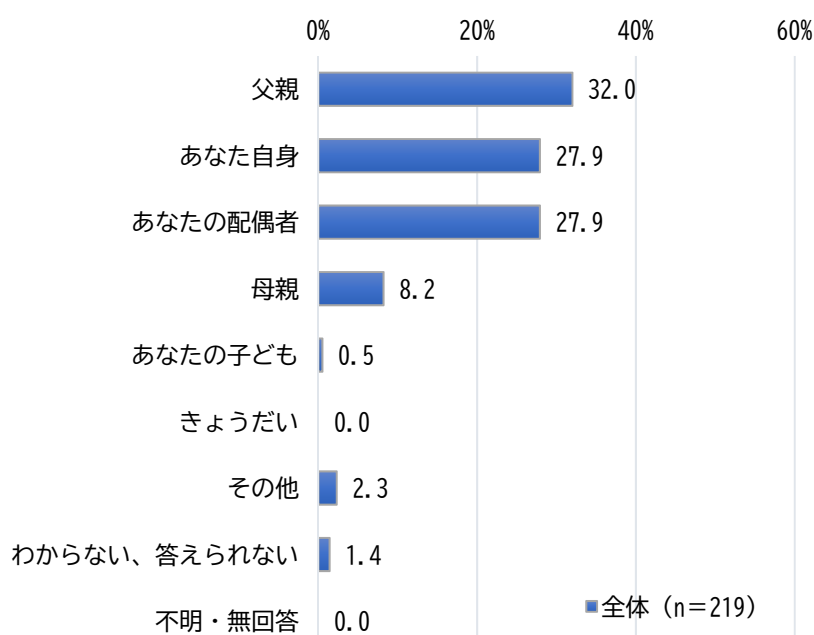
年齢については、「30～34歳」が26.9%で最も高く、次いで「35歳以上」(23.3%)、「10代」(19.2%)と続いています。



問 6

生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(1つに○)

主に生計を支えている人については、「父親」が32.0%で最も高く、次いで「あなた自身」「あなたの配偶者」(27.9%)、「母親」(8.2%)と続いています。

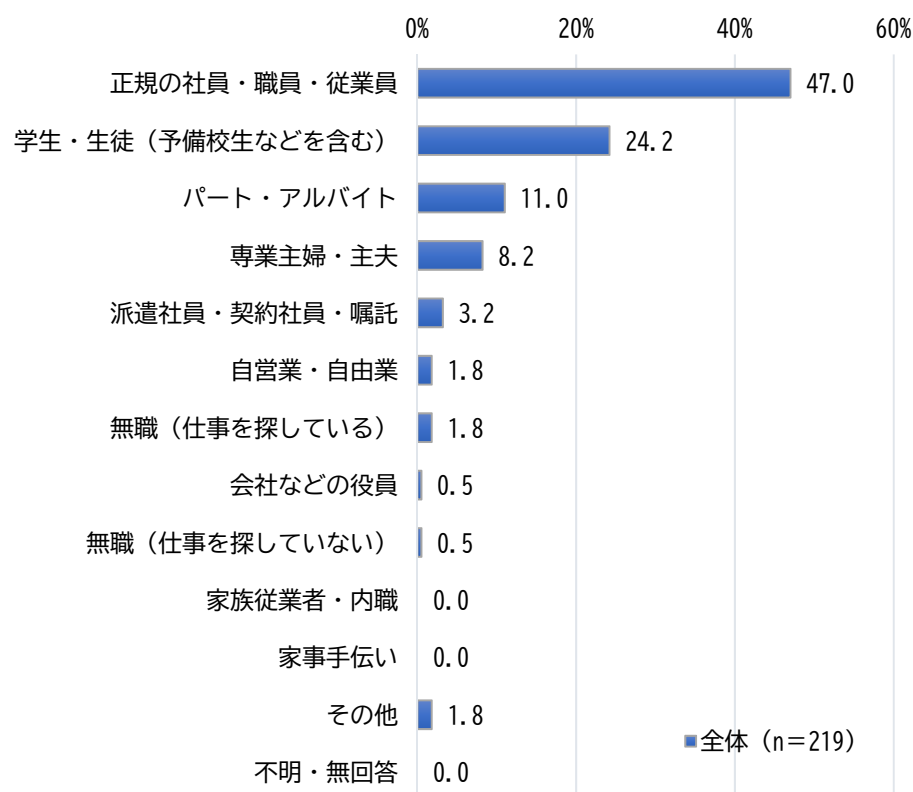


【その他】・共働き ・折半

問9

あなたの現在の仕事をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

現在の仕事については、「正規の社員・職員・従業員」が 47.0%で最も高く、次いで「学生・生徒（予備校生などを含む）」(24.2%)、「パート・アルバイト」(11.0%)と続いています。

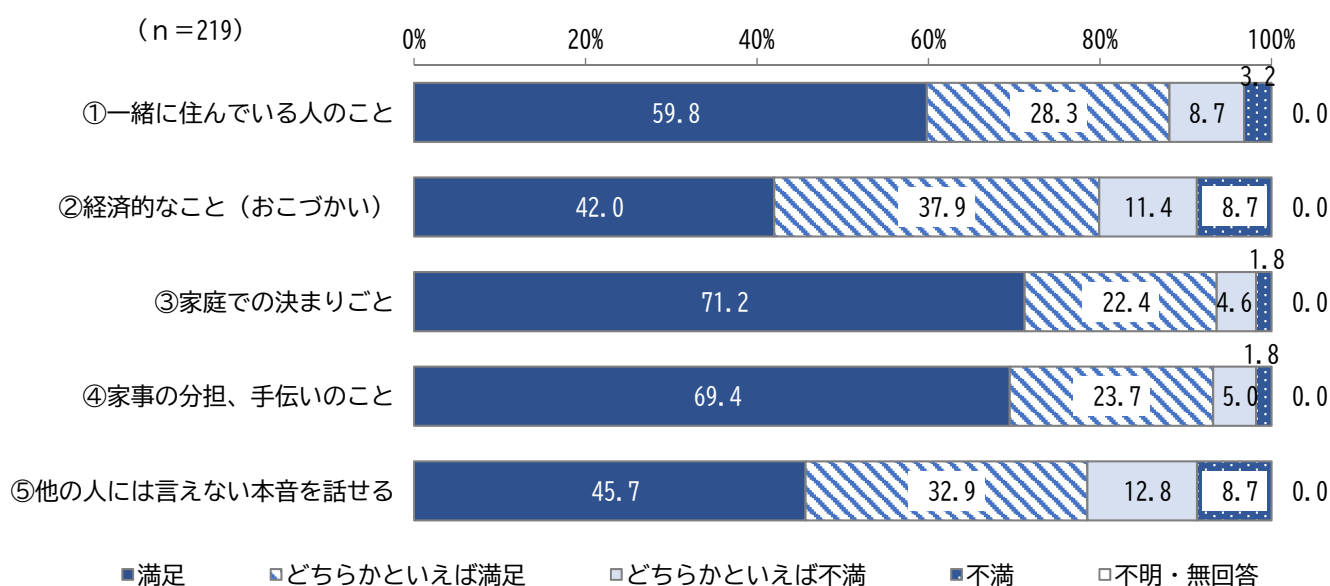


普段の生活について

問 11

あなたは、家での生活に満足していますか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

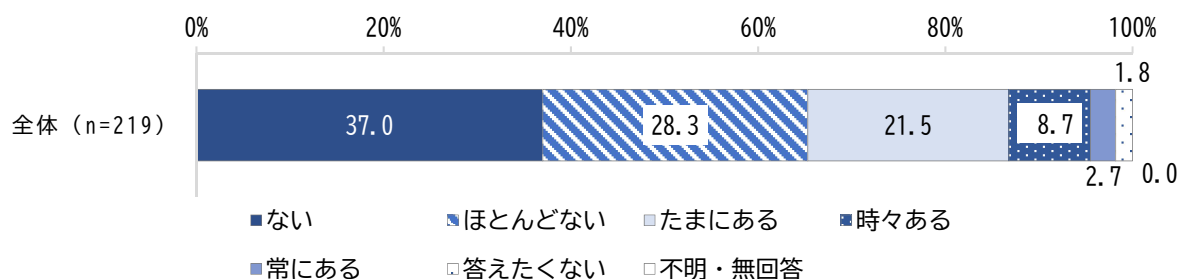
生活の満足度については、「満足」+「どちらかといえば満足」が「①一緒に住んでいる人のこと」で 85.8%、「②経済的なこと（おこづかい）」で 64.4%、「③家庭での決まりごと」で 89.0%、「④家事の分担、手伝いのこと」で 82.2%となっており、②を除いて8割を超えています。



「居場所」について

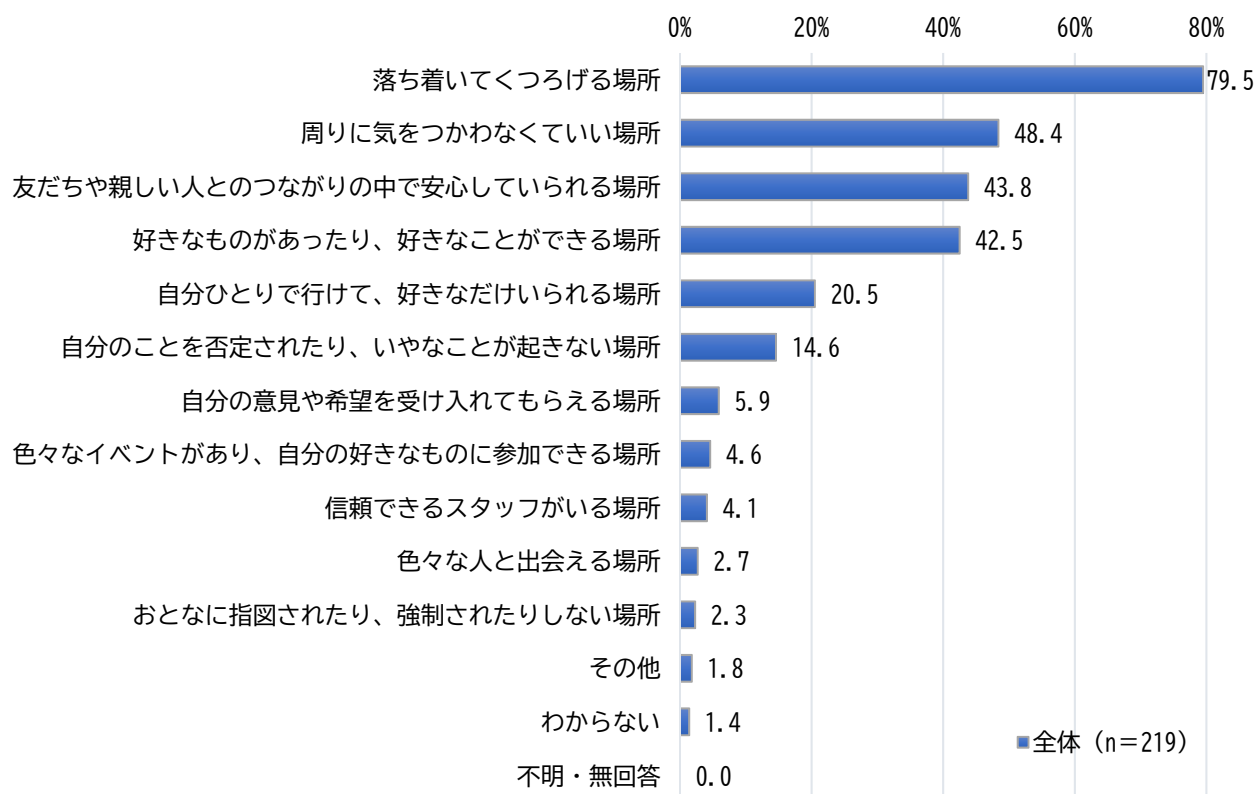
問 15 あなたは、孤独であると感じることがありますか。（1つに○）

孤独を感じるかについては、「ない」が 37.0%で最も高く、次いで「ほとんどない」(28.3%)、「たまにある」(21.5%)と続いています。



問 16 あなたは、「居場所」とはどんなところだと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

どんなところを居場所だと思うかについては、「落ち着いてくつろげる場所」が 79.5%で最も高く、次いで「周りに気をつかわなくていい場所」(48.4%)、「友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所」(43.8%)と続いています。

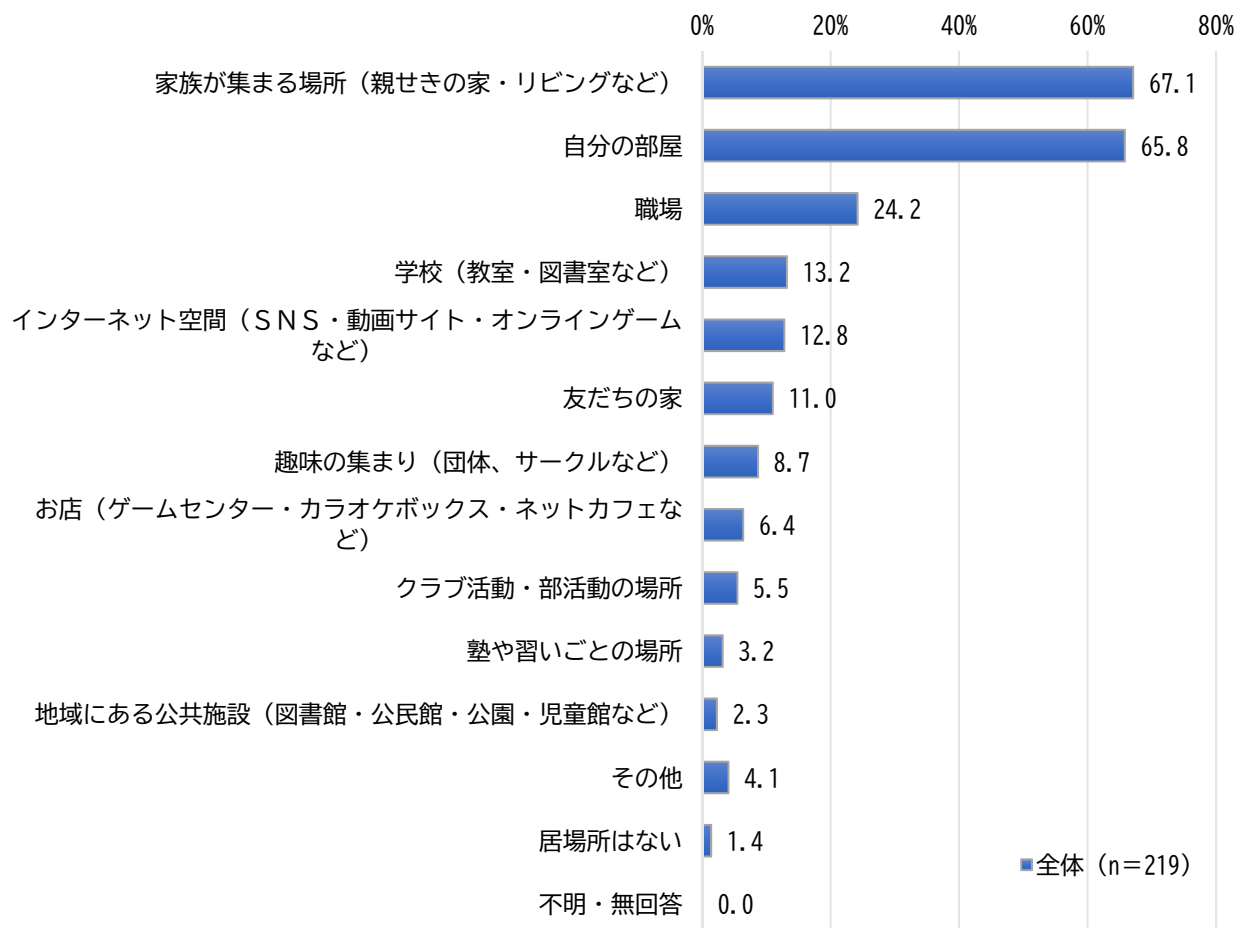


【その他】・家族がいるところ ・家 ・人から干渉されない所

問 17

あなたにとっての「居場所」は、次のうちどこですか。（あてはまるもの3つまでに○）

居場所については、「家族が集まる場所（親せきの家・リビングなど）」が67.1%で最も高く、次いで「自分の部屋」（65.8%）、「職場」（24.2%）と続いています。



【その他】

- ・一人で入るお風呂、トイレ ・車の中
- ・友人や家族という空間そのもの ・兄弟と一緒にの寝室

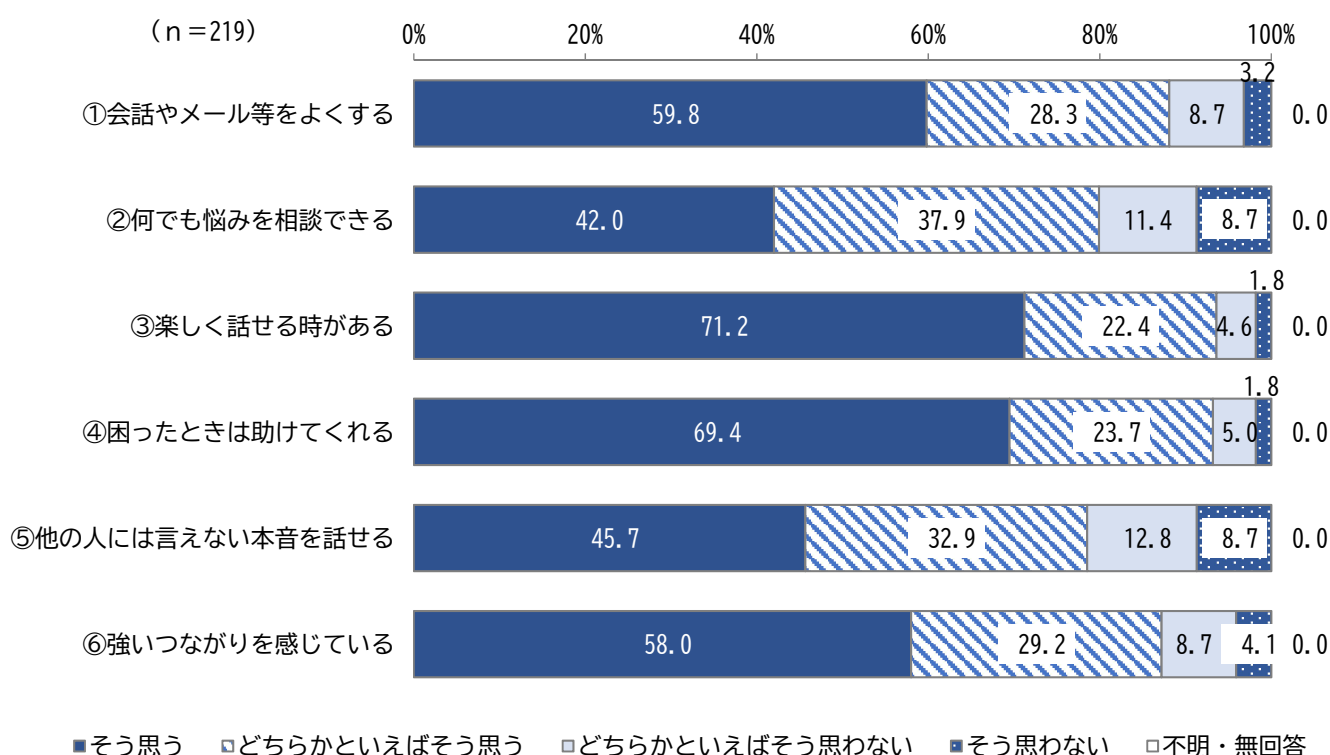
家族、友人等とのかかわりについて

問 19

家族とあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

①～⑥の項目別にみると、「(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」については、「③楽しく話せる時がある」が93.6%で最も高く、次いで「④困ったときは助けてくれる」(93.1%)、「①会話やメール等をよくする」(88.1%)と続いています。

(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)については、「⑤他の人には言えない本音を話せる」が21.5%で最も高く、次いで「②何でも悩みを相談できる」(20.1%)、「⑥強いつながりを感じている」(12.8%)と続いています。

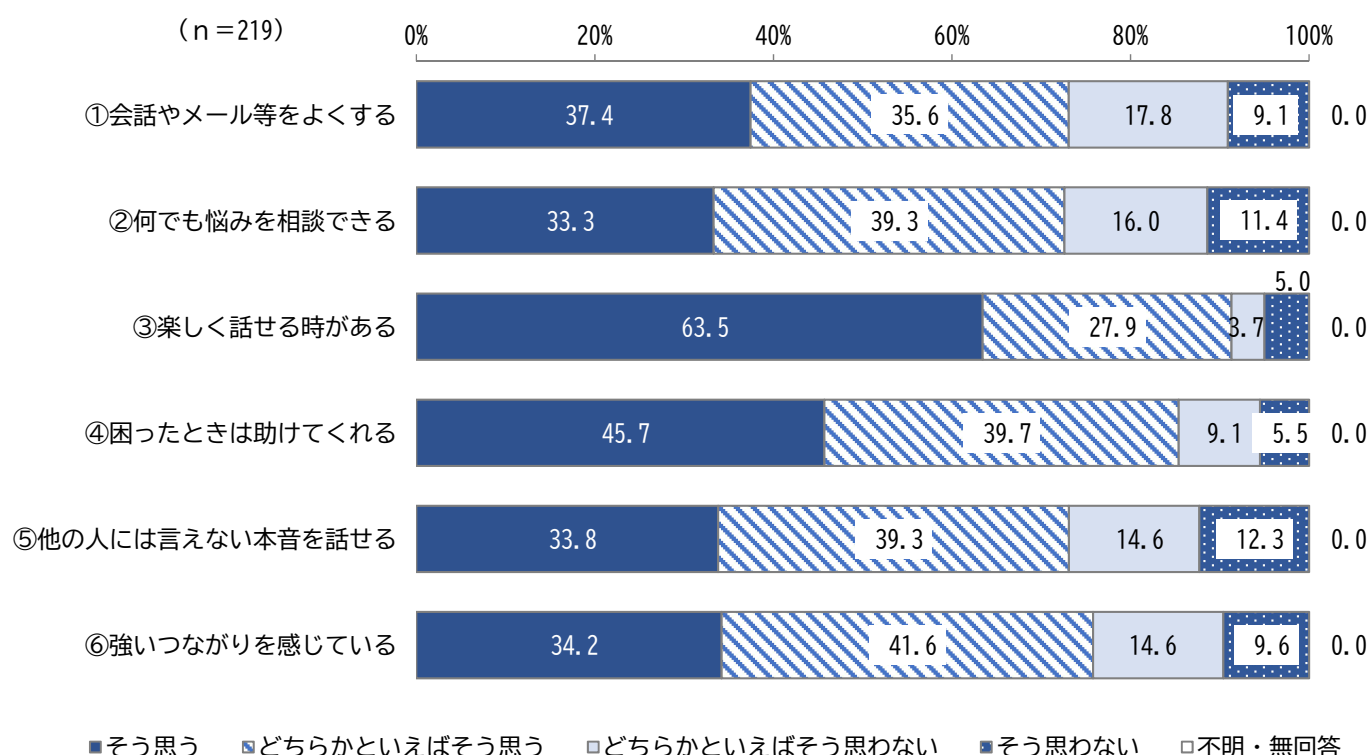


問 20

友人・知人とあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

①～⑥の項目別にみると、「(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)」については、「③楽しく話せる時がある」が91.4%で最も高く、次いで「④困ったときは助けてくれる」(85.4%)、「⑥強いつながりを感じている」(75.8%)と続いています。

「(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)」については、「②何でも悩みを相談できる」が27.4%で最も高く、次いで「①会話やメール等をよくする」「⑤他の人には言えない本音を話せる」(26.9%)、「⑥強いつながりを感じている」(24.2%)と続いています。

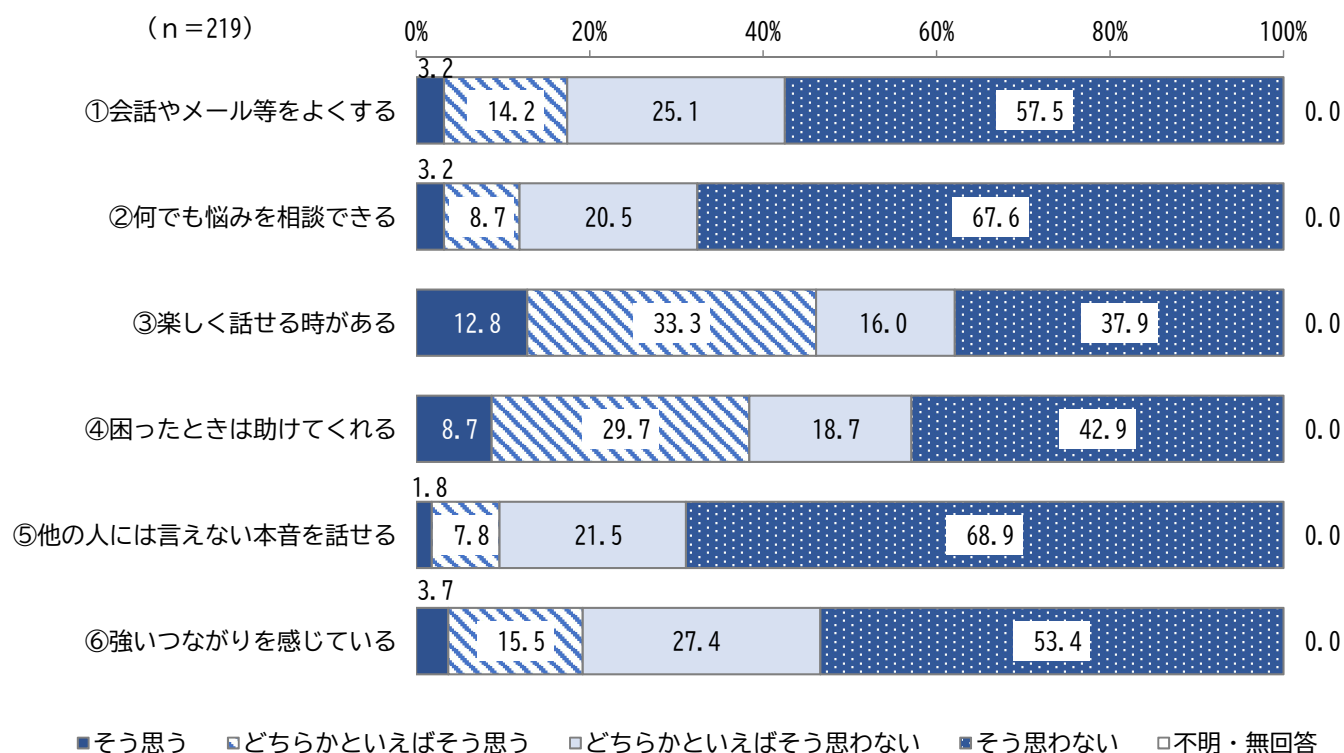


問 21

地域の人（近所の人など）とあなたのかかわりはどのようなものですか。
（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

①～⑥の項目別にみると、「（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）については、「③楽しく話せる時がある」が46.1%で最も高く、次いで「④困ったときは助けてくれる」（38.4%）、「⑥強いつながりを感じている」（19.2%）と続いています。

（「「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）については、「他の人には言えない本音を話せる」が90.4%で最も高く、次いで「②何でも悩みを相談できる」（88.1%）、「①会話やメール等をよくする」（82.6%）と続いています。

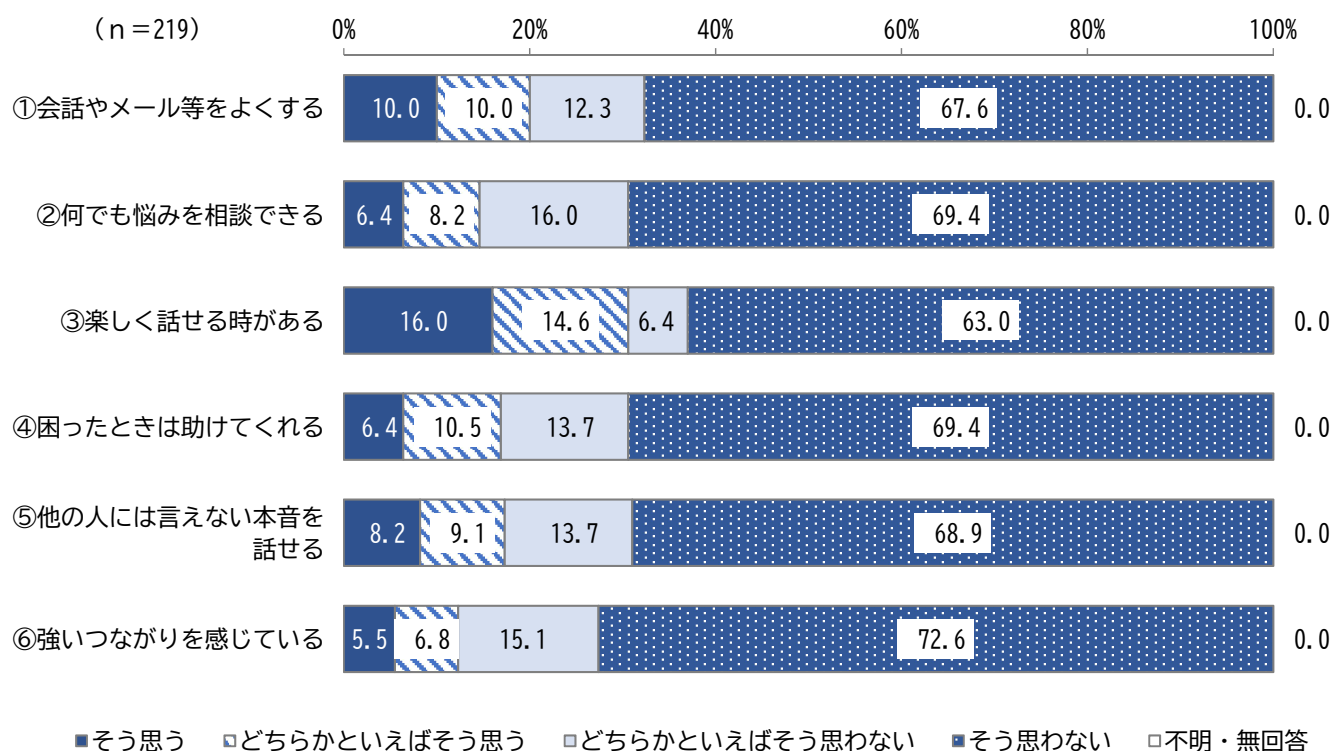


問 22

インターネット上での知り合いやコミュニティ（具体的には面識がない、あるいは数回会ったことがあるが、基本的にはネット中心の付き合いの人）とあなたのかかわりはどのようなものですか。（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

①～⑥の項目別にみると、「（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）については、「③楽しく話せる時がある」が30.6%で最も高く、次いで「①会話やメール等をよくする」（20.0%）、「④困ったときは助けてくれる」（16.9%）と続いています。

（「「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）については、「⑥強いつながりを感じている」が87.7%で最も高く、次いで「②何でも悩みを相談できる」（85.4%）、「④困ったときは助けてくれる」（83.1%）と続いています。

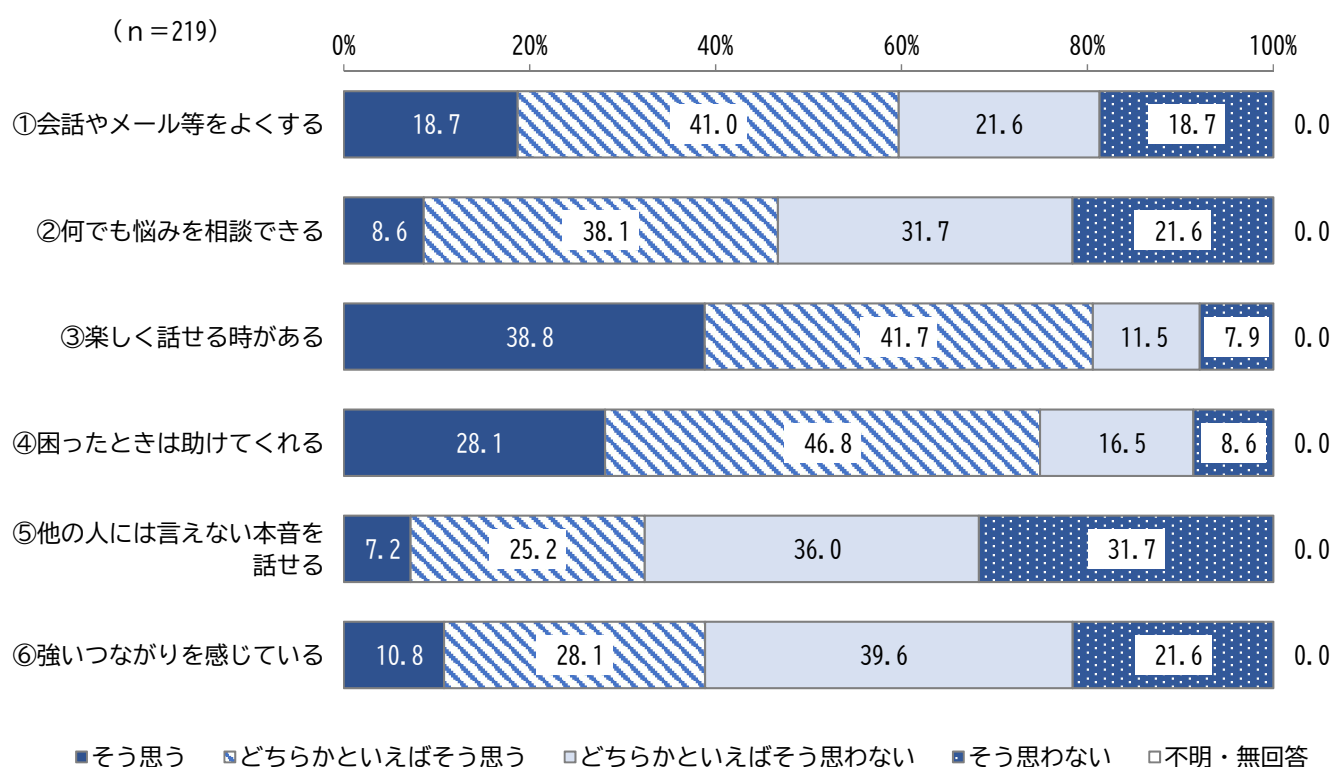


問 23

職場の方（上司、同僚、部下など）とあなたのかかわりはどのようなものですか。
（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

①～⑥の項目別にみると、「（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）については、「③楽しく話せる時がある」が80.5%で最も高く、次いで「④困ったときは助けてくれる」（74.9%）、「①会話やメール等をよくする」（59.7%）と続いています。

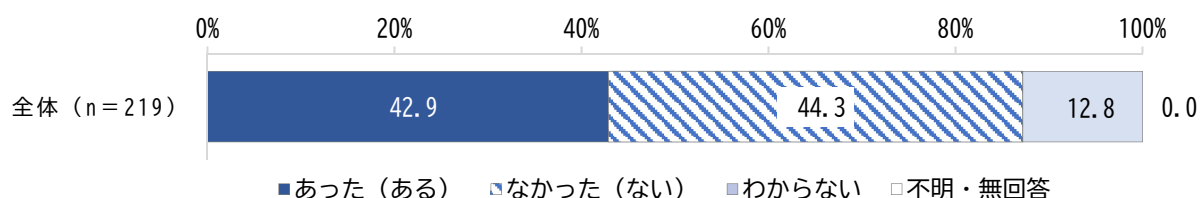
（「「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）については、「⑤他の人には言えない本音を話せる」が67.7%で最も高く、次いで「⑥強いつながりを感じている」（61.2%）、「②何でも悩みを相談できる」（53.3%）と続いています。



問 24

あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況にありますか。
(1つに○)

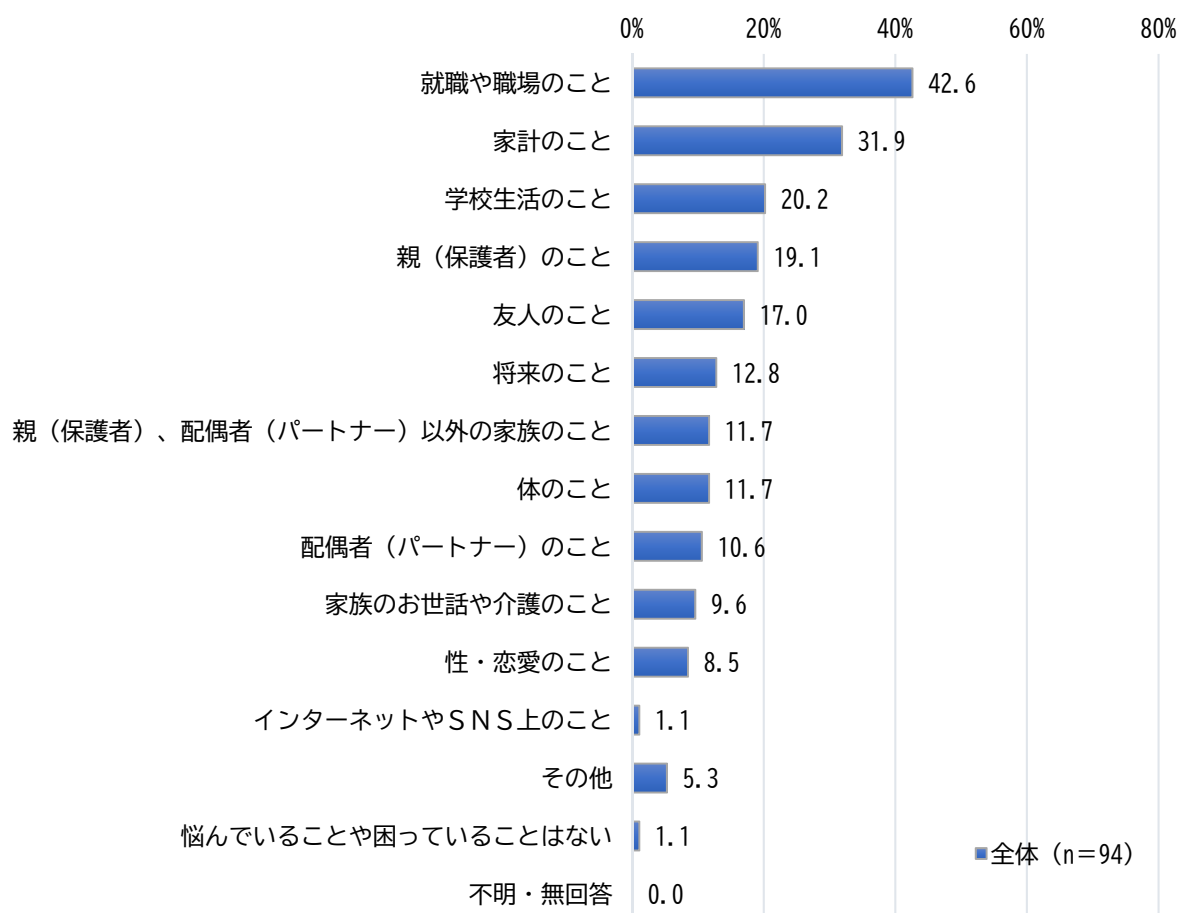
今まで、あるいは現在において社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験については、「なかった（ない）」が 44.3%で最も高く、次いで「あった（ある）」(42.9%)、「わからない」(12.8%)と続いています。



問 25

【問24で「1. あった（ある）」に○を付けた方にうかがいます。】
社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった（送れていない）主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった（送れていない）主な原因については、「就職や職場のこと」が 42.6%で最も高く、次いで「家計のこと」(31.9%)、「学校生活のこと」(20.2%)と続いています。

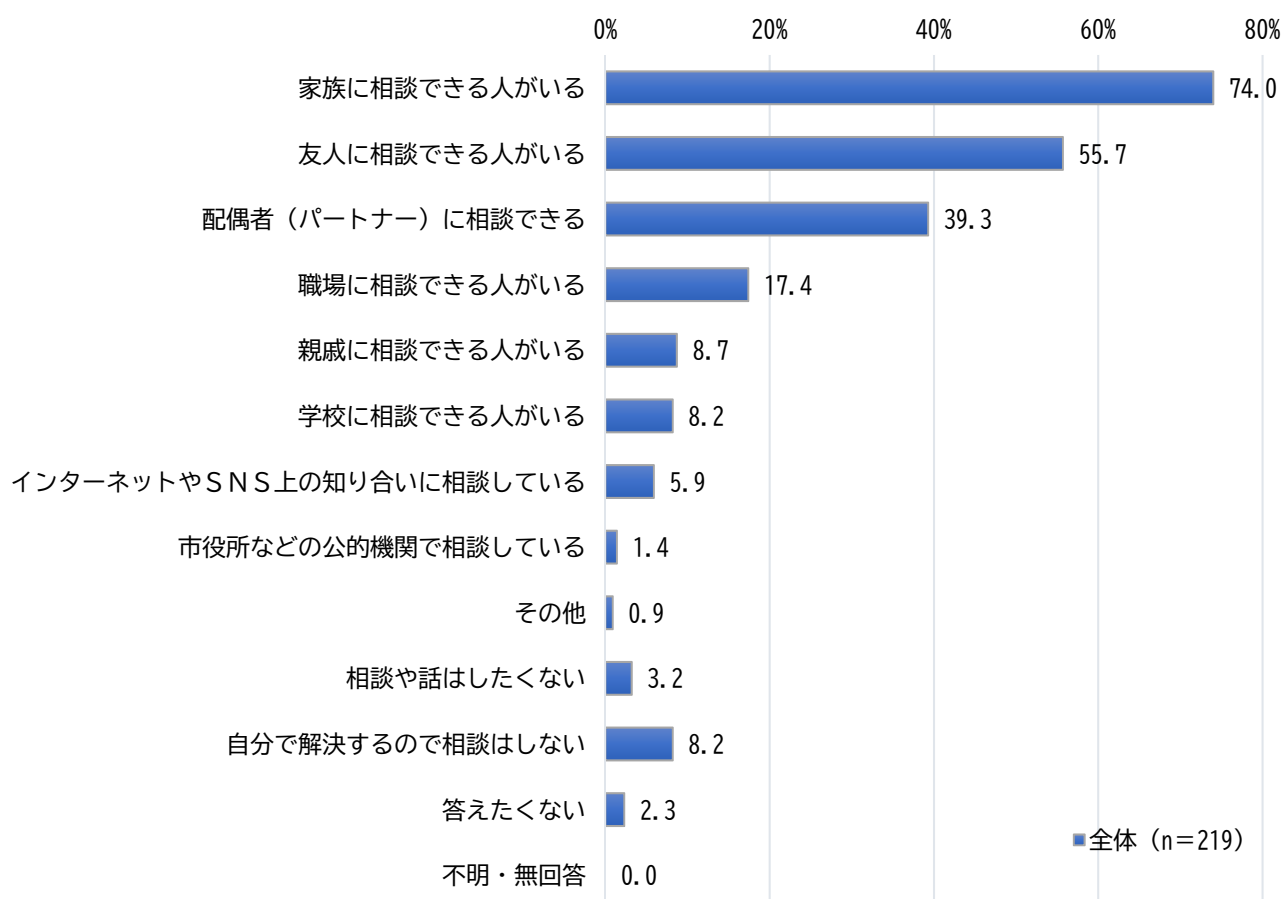


【その他】・赤穂市の幼保一体じゃないこと ・自分の責任

問 28

あなたは、悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人がいますか。（あてはまるものすべてに○）

悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人については、「家族に相談できる人がいる」が74.0%で最も高く、次いで「友人に相談できる人がいる」(55.7%)、「配偶者（パートナー）に相談できる」(39.3%)と続いています。



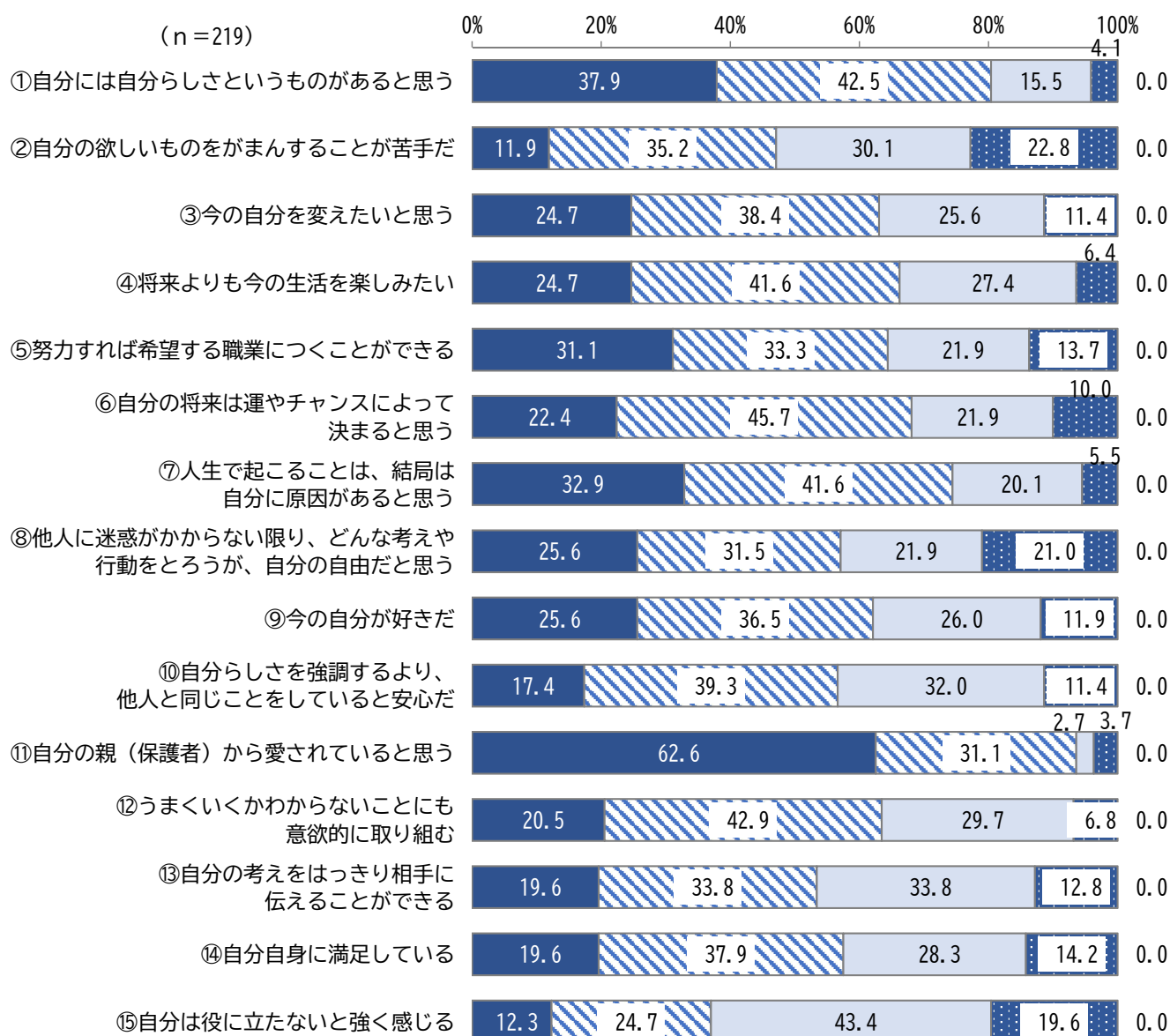
自身の今・将来について

問 30

あなた自身について、次のうちあてはまるものを教えてください。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

①～⑮の項目別にみると、「(「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」) については、「⑪自分の親(保護者)から愛されていると思う」が93.7%で最も高く、次いで「①自分には自分らしさというものがあると思う」(80.4%)、「⑦人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う」(74.5%)と続いています。

(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」) については、「⑮自分は役に立たないと強く感じる」が63.0%で最も高く、次いで「②自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ」(52.9%)、「⑬自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」(46.6%)と続いています。

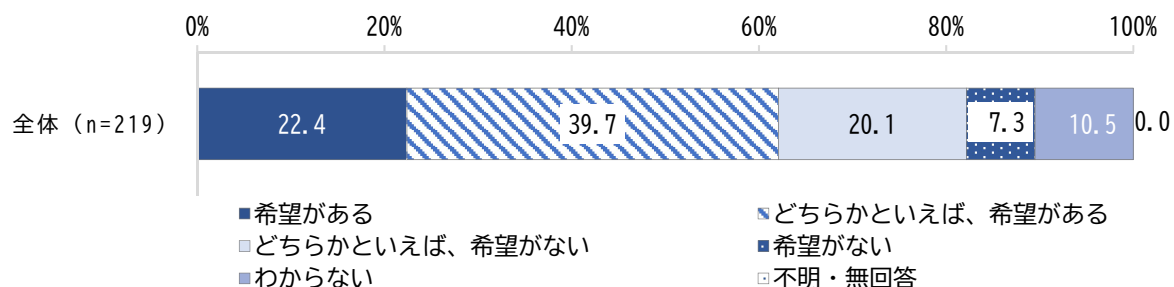


■あてはまる □どちらかといえばあてはまる □どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない □不明・無回答

問 31

あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つに○)

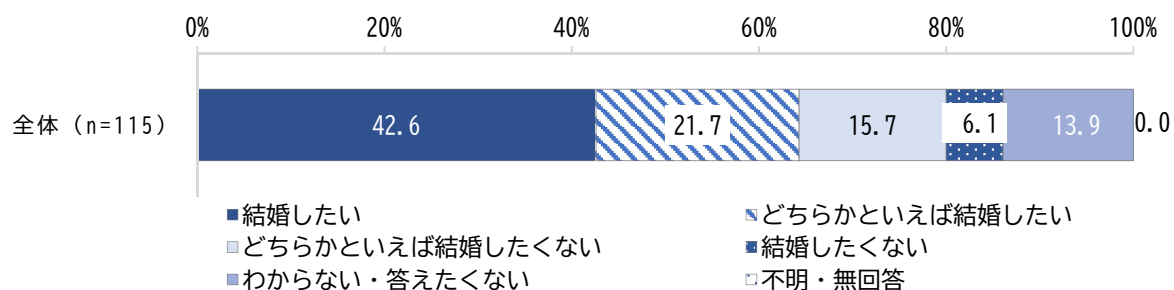
自分の将来について明るい希望を持っているかについては、「どちらかといえば、希望がある」が 39.7%で最も高く、次いで「希望がある」(22.4%)、「どちらかといえば、希望がない」(20.1%)と続いています。



問 33

【問32で「2. 結婚している」以外を選んだ方にうかがいます】
あなたは今後、結婚したいと思っていますか。(1つに○)

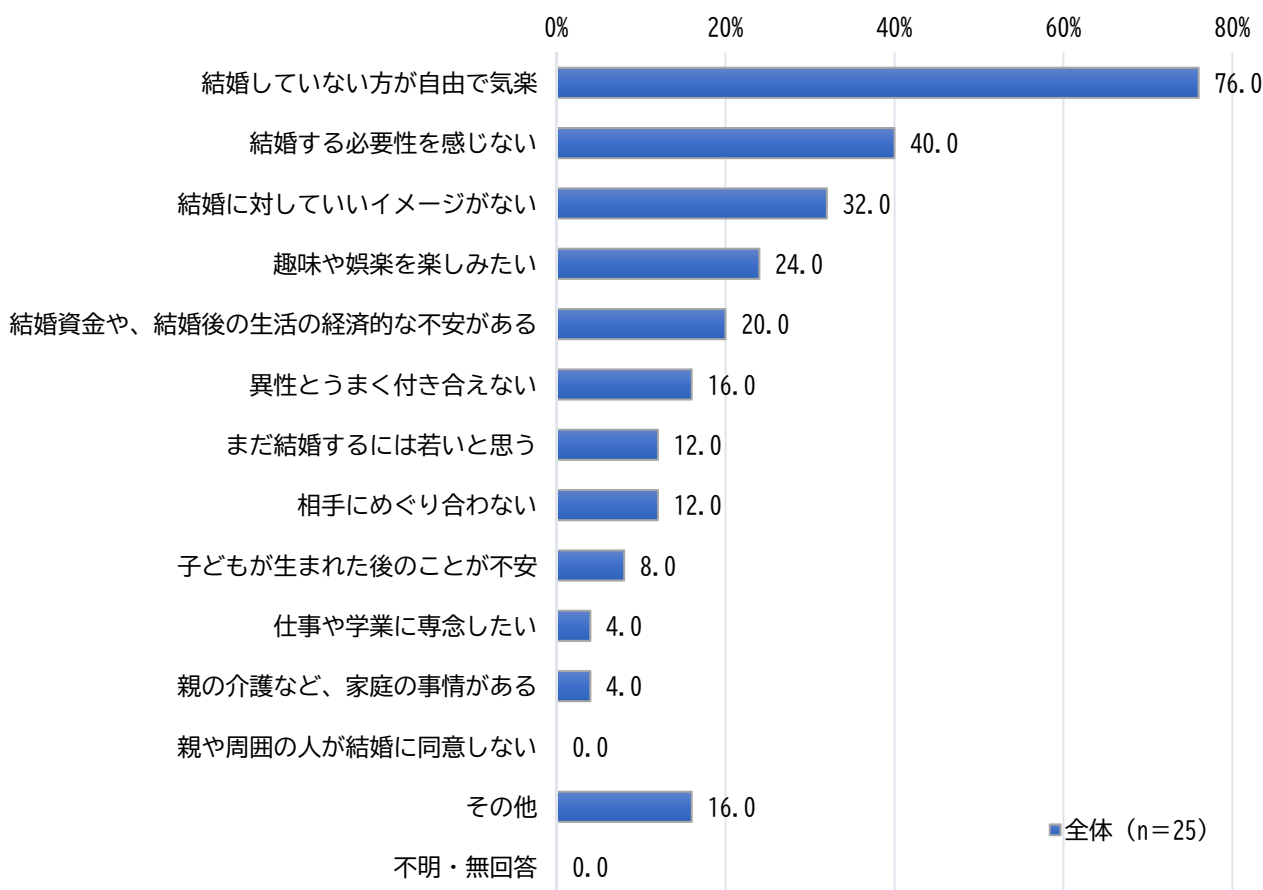
今後、結婚したいと思っているかについては、「結婚したい」が 42.6%で最も高く、次いで「どちらかといえば結婚したい」(21.7%)、「どちらかといえば結婚したくない」(15.7%)と続いています。



問 34

【問33で「3. どちらかといえば結婚したくない」または「4. 結婚したくない」を選んだ方】
 あなたがそう思った理由は何ですか。（あてはまるもの3つまでに○）

結婚したくないと思った理由については、「結婚していない方が自由で気楽」が76.0%で最も高く、次いで「結婚する必要性を感じない」（40.0%）、「結婚に対していいイメージがない」（32.0%）と続いています。



【その他】

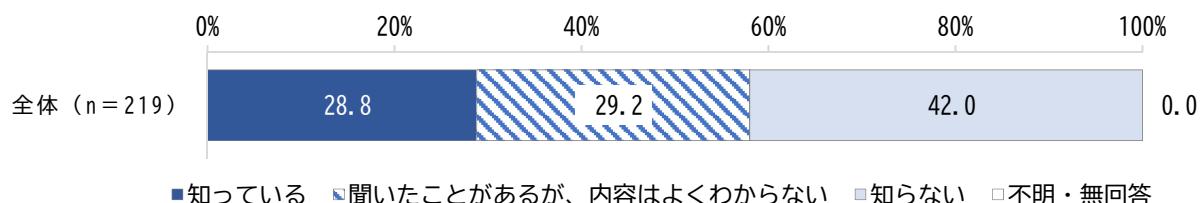
- ・相手の人生壊したくない
- ・子どもたちが最優先 再婚になった場合、子どもたちがどんな気持ちになるかわからない不安
- ・恋愛方面に関して、異性に悪い思い出がある。

こども・若者の意見反映について

問 41

あなたは、すべての子どもには「意見を表明する権利」（子どもが、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができる権利）があるということを知っていますか。（1つに○）

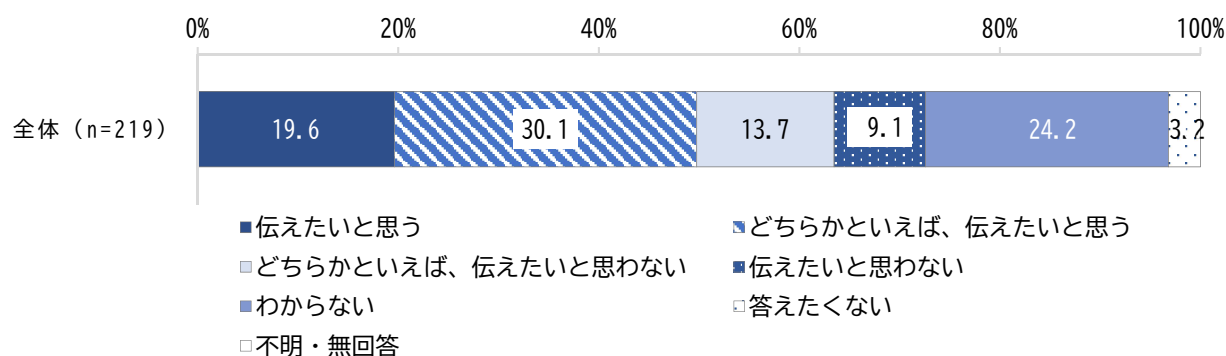
すべての子どもには「意見を表明する権利」があるということを知っているかについては、「知らない」が 42.0%で最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」（29.2%）、「知っている」（28.8%）と続いています。



問 42

あなたは、赤穂市に自分の意見を伝えたいと思いますか。（1つに○）

赤穂市に自分の意見を伝えたいと思うかについては、「どちらかといえば、伝えたいと思う」が 30.1%で最も高く、次いで「わからない」（24.2%）、「伝えたいと思う」（19.6%）と続いています。



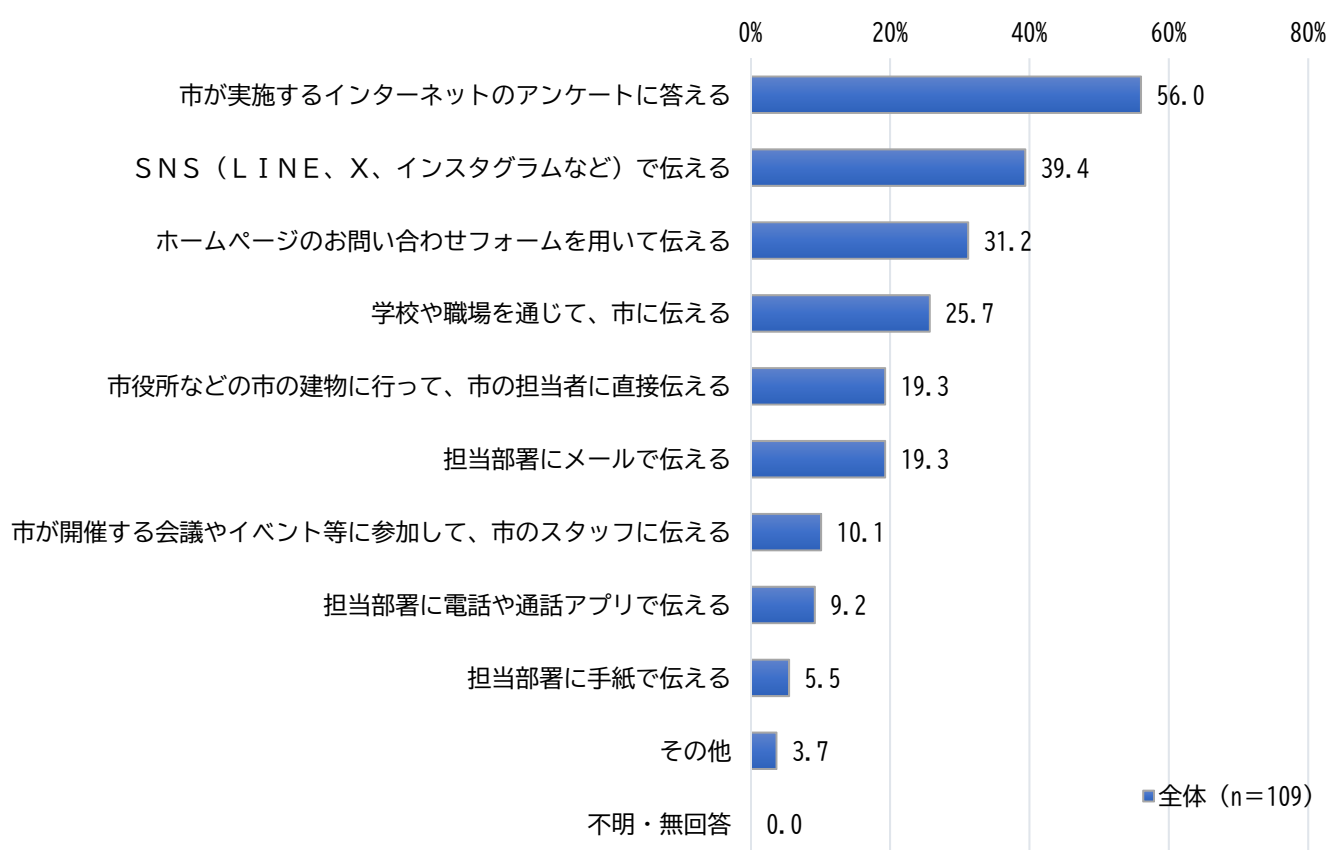
問 43

【問42で「1. 伝えたいと思う」、「2. どちらかといえば、伝えたいと思う」に○を付けた方】

どのような方法や手段であれば、自分の意見が伝えやすいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

どのような方法や手段であれば、自分の意見が伝えやすいと思うかについては、「市が実施するインターネットのアンケートに答える」が56.0%で最も高く、次いで「SNS（LINE、X、インスタグラムなど）で伝える」（39.4%）、「ホームページのお問い合わせフォームを用いて伝える」（31.2%）と続いています。



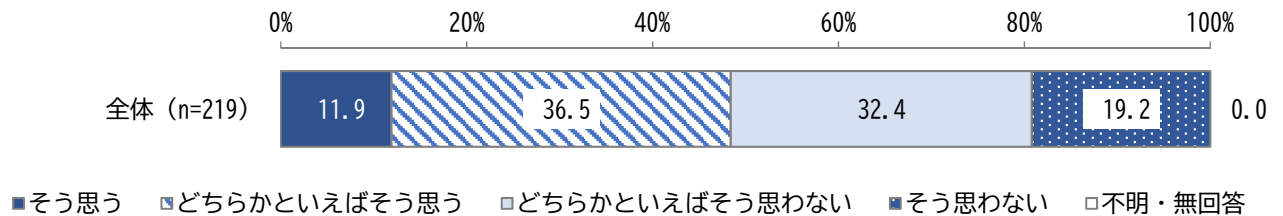
【その他】

- ・市長との対話
- ・匿名で伝えることができる方法であれば良い
- ・市内の企業学校と連携して意見交換会のようなフォーラムを開く（業務・授業の一環として）

問 45

あなたは、赤穂市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思いますか。(1つに○)

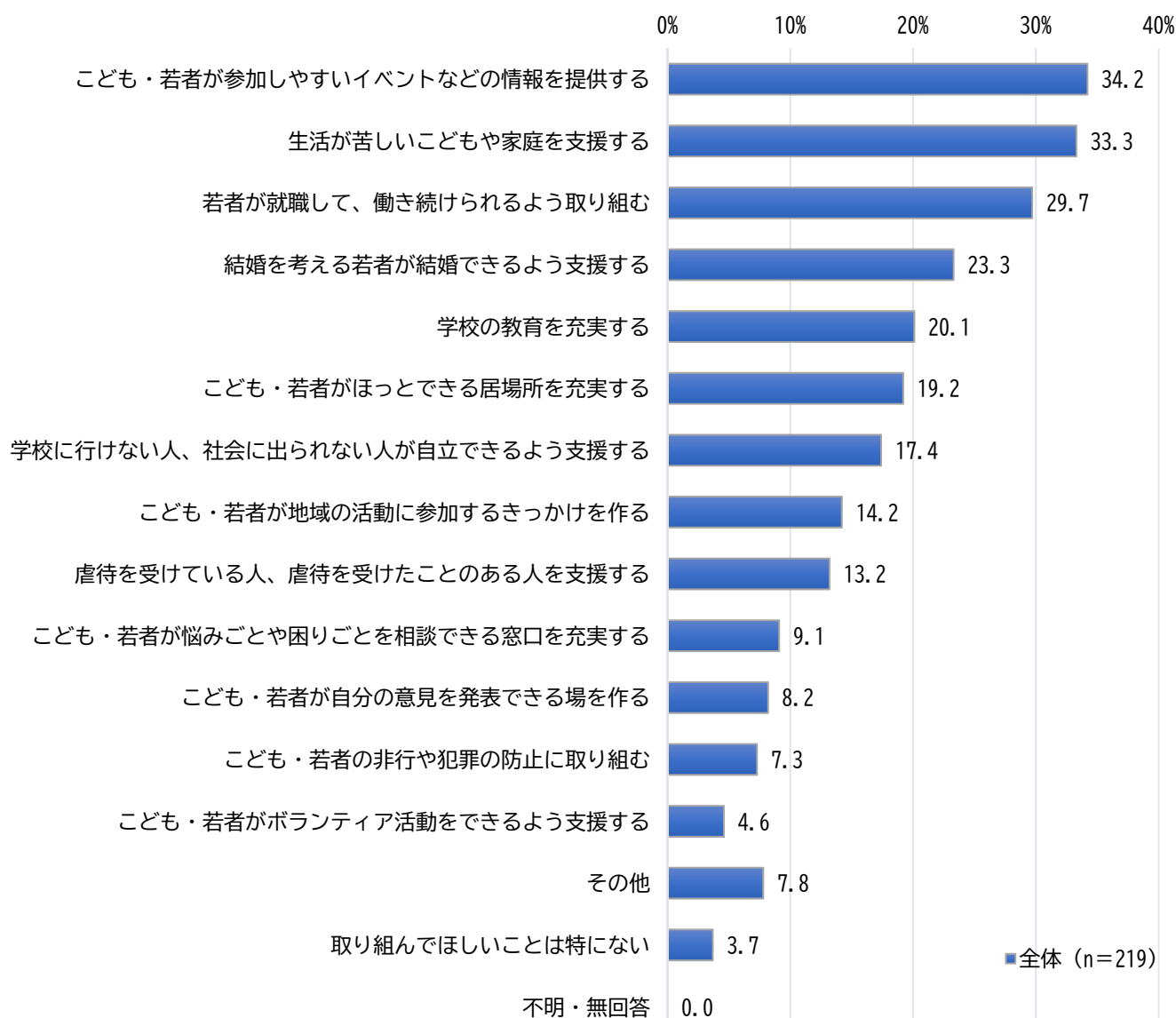
赤穂市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思うかについては、「どちらかといえばそう思う」が 36.5%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」(32.4%)、「そう思わない」(19.2%)と続いています。



問 46

あなたは、こども・若者への支援について、赤穂市にどのようなことに取り組んでほしいですか。（特に取り組んでほしいと思うこと3つまでに○）

こども・若者への支援について、赤穂市にどのようなことに取り組んでほしいかについては、「こども・若者が参加しやすいイベントなどの情報を提供する」が 34.2%で最も高く、次いで「生活が苦しいこどもや家庭を支援する」(33.3%)、「若者が就職して、働き続けられるよう取り組む」(29.7%)と続いています。



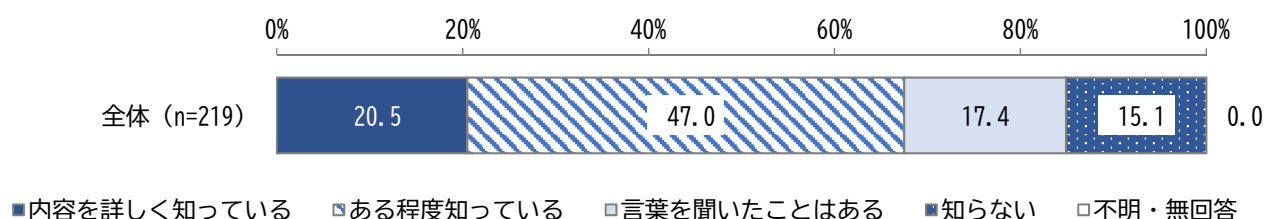
【その他】

- ・住宅購入支援の充実
- ・進学希望者への交通費補助
- ・住み続けたいと思える取り組み
- ・育児補助金やサービスの充実
- ・児童施設の補修と設備改善
- ・遊びに行ける施設や若者向け商業施設の増設
- ・市全体の活性化と交通改善
- ・子育て家庭への資金支援

ヤングケアラーについて

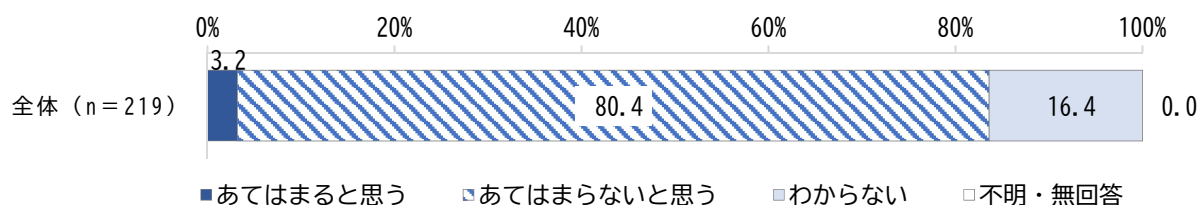
問 47 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(1つに○)

「ヤングケアラー」という言葉を知っているかについては、「ある程度知っている」が 47.0%で最も高く、次いで「内容を詳しく知っている」(20.5%)、「言葉を聞いたことはある」(17.4%)と続いています。



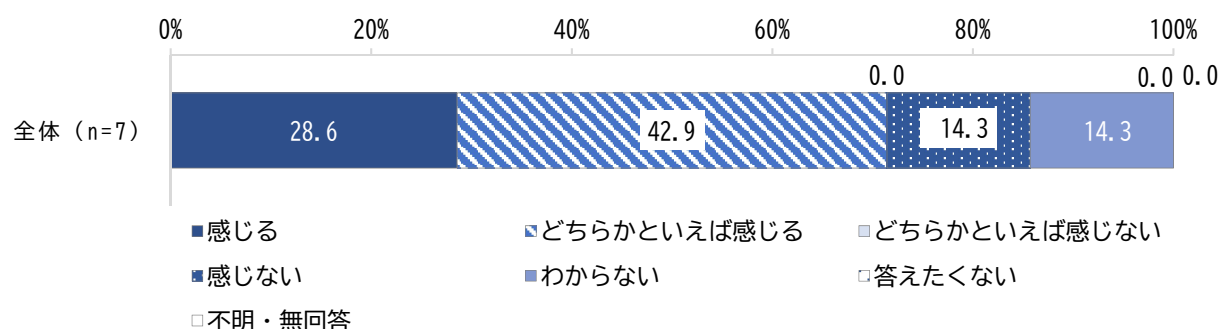
問 48 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。(1つに○)

自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思うかについては、「あてはまらないと思う」が 80.4%で最も高く、次いで「わからない」(16.4%)、「あてはまると思う」(3.2%)と続いています。



問 49 【問48で「1. あてはまると思う」に○を付けた方】
あなたは、家事や家族等のお世話を負担に感じますか。(1つに○)

家事や家族等の世話を負担に感じるかについては、「どちらかといえば感じる」が 42.9%で最も高く、次いで「感じる」(28.6%)、「感じない」「わからない」(14.3%)と続いています。



問 50

最後に、こども・若者支援に関してご意見がございましたら、ご自由に記入してください。

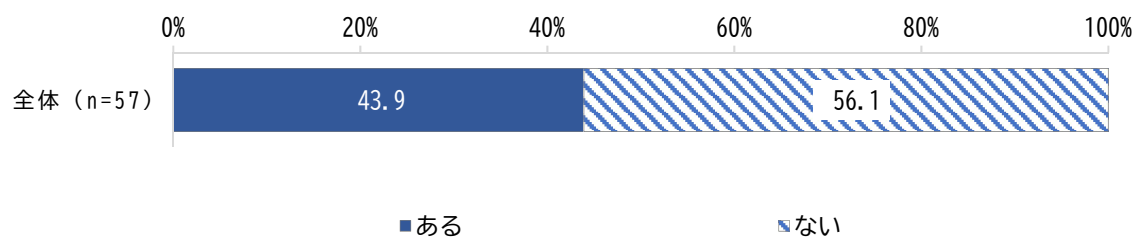
内容	件数
子育て・教育支援 (給食費・保育料の補助、保育士の確保と待遇改善、教育施設の改善)	20
若者支援 (若者の文化支援、キャリア・結婚支援、労働環境改善、若者向け施設の誘致)	13
地域活性化 (観光資源の活用、地域のブランド化、イベント開催、地域コミュニティの充実、安心できる町づくり)	11
経済支援・補助金 (支援金・補助金の拡充、減税)	7
医療 (医療施設の拡充、医療アクセスの改善、医療費負担の軽減)	4
その他の意見 (アンケートについての感想・要望、職員への感謝・激励)	12

社会資源調査

問1

貴機関において、日々の業務の中で、経済的に困窮していると思われる家庭（困窮家庭）の子どもや保護者に接することがありますか。（1つに○）

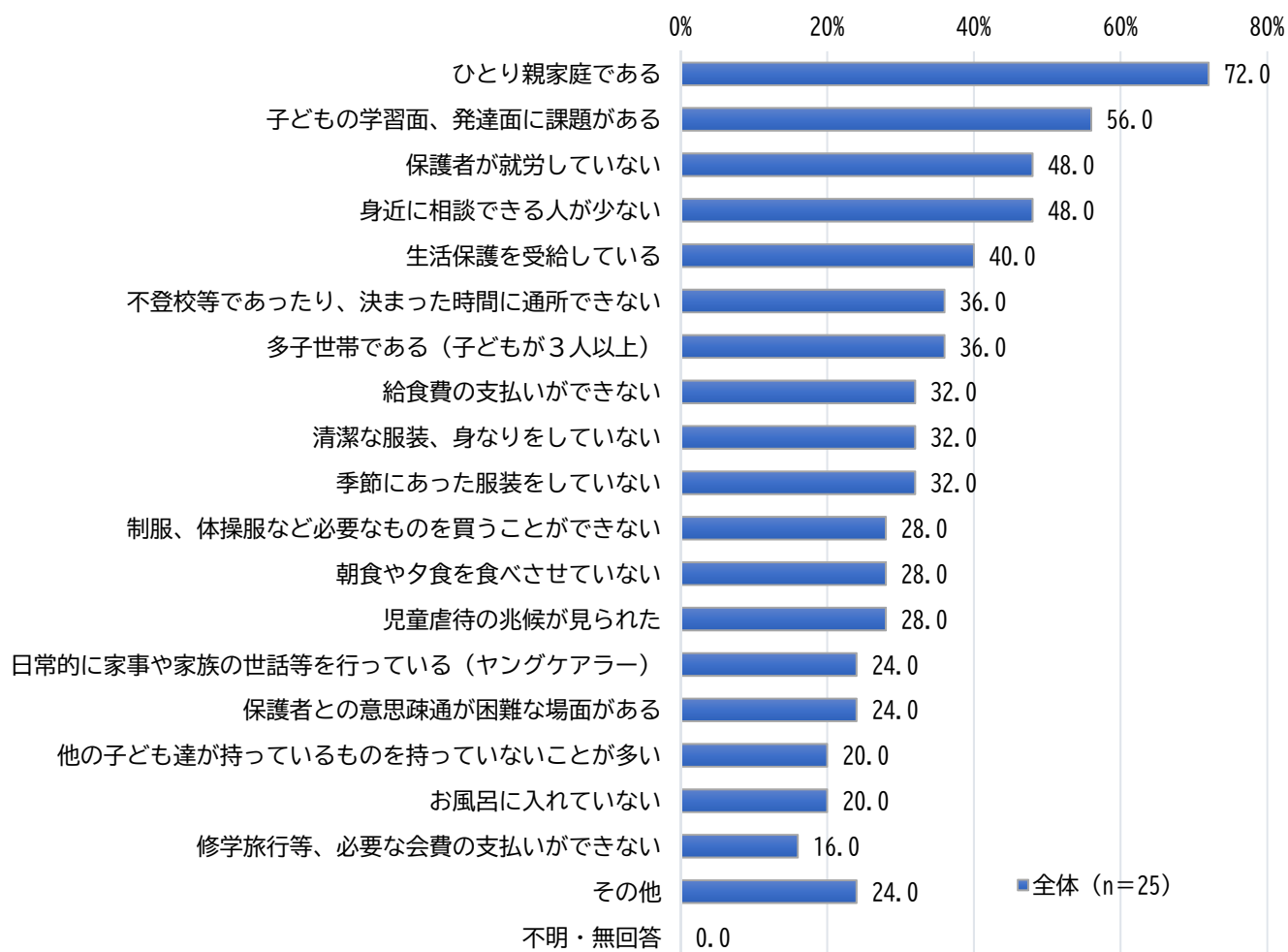
日々の業務の中で、困窮家庭の子どもや保護者に接することがあるかについては、「ない」が56.1%、「ある」が43.9%となっています。



問2

【問1で「1. ある」と答えた方】
 困窮家庭には、具体的にどのような状況がありますか。（当てはまるものすべてに○）

具体的な状況については、「ひとり親家庭である」が72.0%で最も高く、次いで「子どもの学習面、発達面に課題がある」(56.0%)、「保護者が就労していない」「身近に相談できる人が少ない」(48.0%)と続いています。



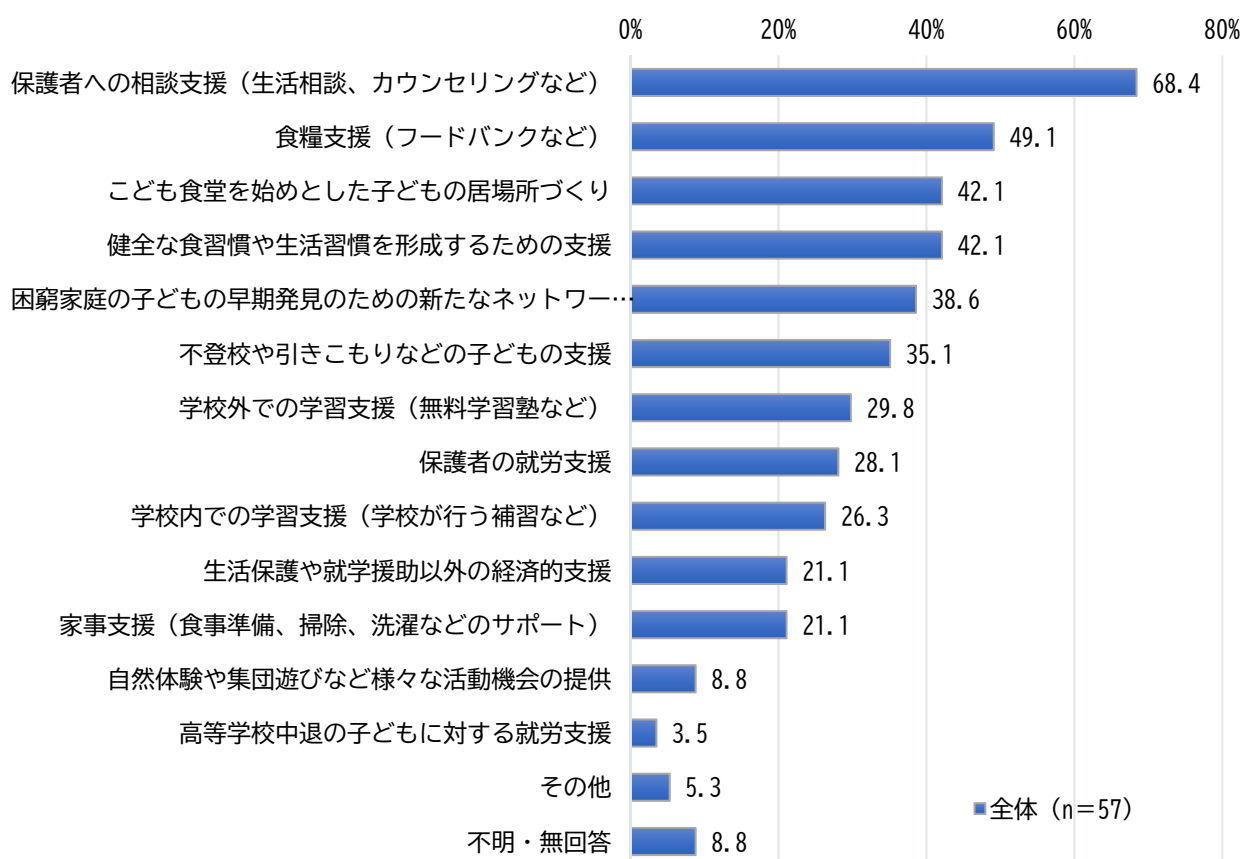
その他の回答

- ・経済的な理由から、おむつの使用回数を減らして欲しいとの要望があった。
- ・保護者が若年者であり、実際の世話を祖父母、中学生の叔母が担っている。
- ・多子である分、手当もあり、生活が困窮するほど収入に困っているわけではないと思われるが、支出の優先順位が適切ではないようで、常に集金等が遅れる。
- ・地域の中で孤立している。
- ・家に食べる物がなく、フードパントリー等から食料支援を受けている保護者の浪費が激しく、児童の養育に十分にあてられてない。
- ・保護者が病気療養中で、就労できない状況にある。

問6

困窮家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要だと思いますか。（5つまで○）

困窮家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要だと思うかについては、「保護者への相談支援（生活相談、カウンセリングなど）」が 68.4%で最も高く、次いで「食糧支援（フードバンクなど）」（49.1%）、「こども食堂を始めとした子どもの居場所づくり」「健全な食習慣や生活習慣を形成するための支援」（42.1%）と続いています。



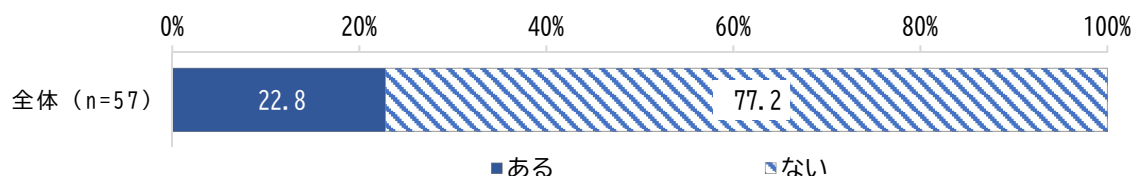
その他の回答

- ・一団体等による支援だけでなく、複数の機関がそれぞれの役割を認識し、適切な時期、支援を協力して行うこと。
- ・貧困家庭の子どもがヤングケアラーにならないためにボランティアなど家事、送迎などの地域毎の支援の仕組。
- ・金銭管理の仕方、お金の使い方をわかってもらう。

問7

貴機関において、日常的に家事や家族の世話等を行っていると思われる子ども（ヤングケアラー）に接することがありますか。（1つに○）

日々の業務の中で、困窮家庭の子どもや保護者に接することがあるかについては、「ない」が77.2%、「ある」が22.8%となっています。

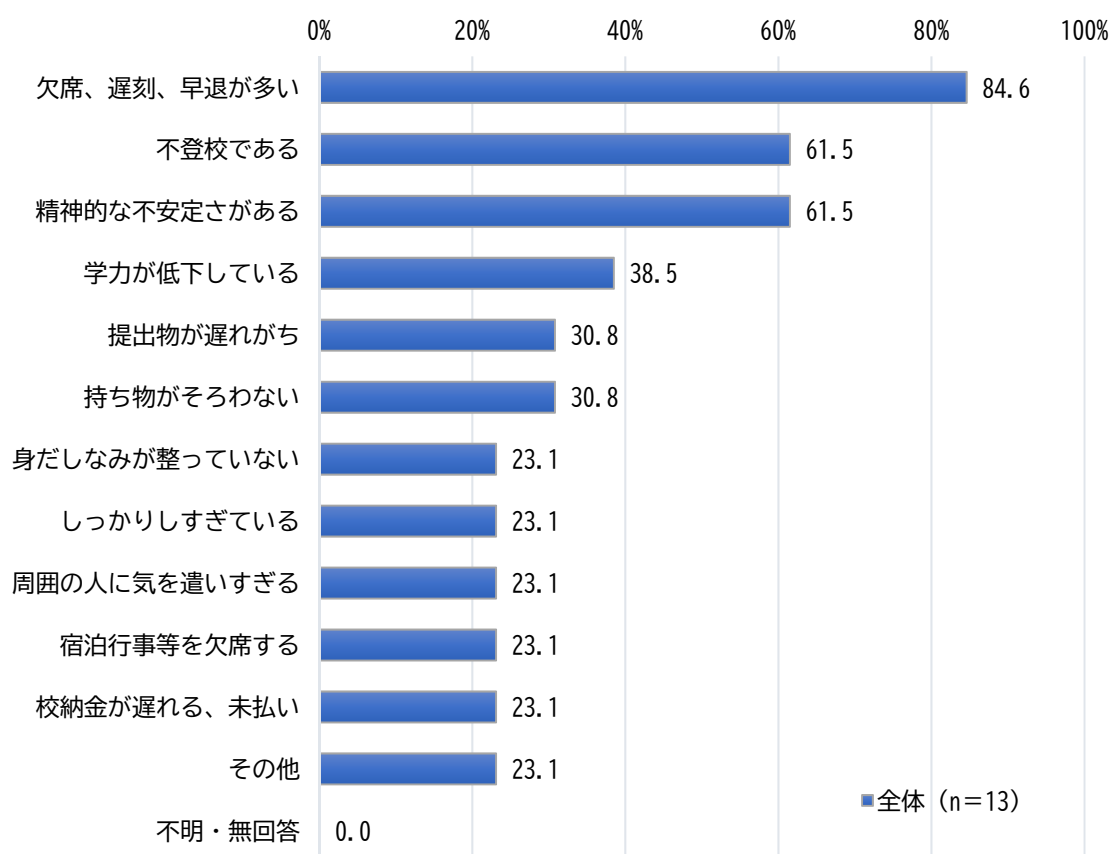


問9

【問7で「1. ある」と答えた方】

ヤングケアラーには、具体的にどのような状況がありますか。
（当てはまるものすべてに○）

ヤングケアラーの具体的な状況については、「欠席、遅刻、早退が多い」が84.6%で最も高く、次いで「不登校である」「精神的な不安定さがある」（61.5%）、「学力が低下している」（38.5%）と続いています。



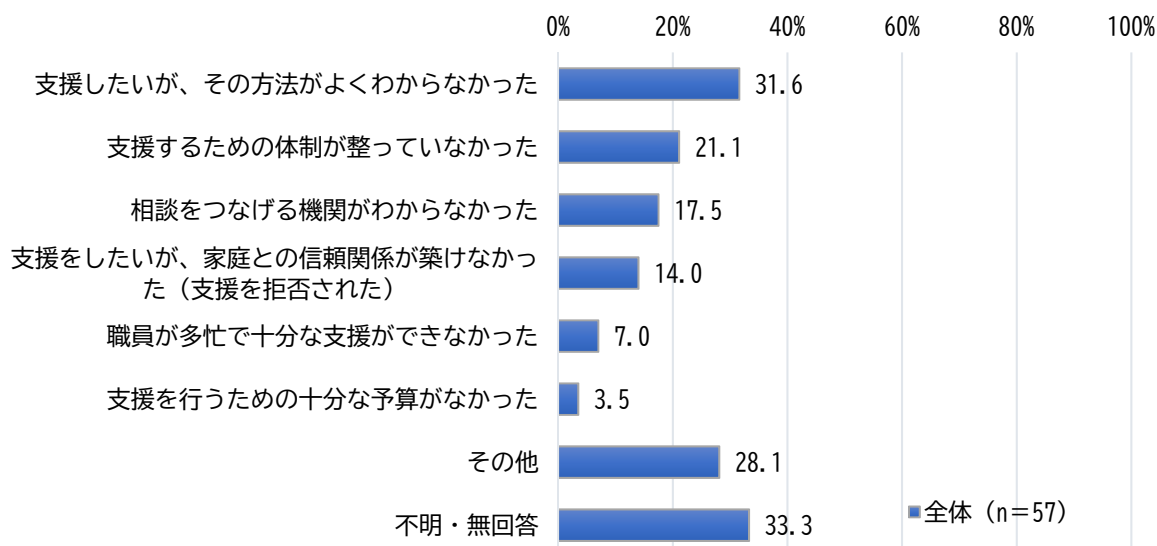
その他の回答

- ・きょうだいの身の回りの世話をするのが恒常的になっている（世話が問題でなく保護者がすべきとこまで過度に関わっていることが問題と思われる。）
- ・食事が適当、部屋に閉じ込もっている。
- ・1人親家庭。

問 10

困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーに対する支援を行う中で、特に悩んだり困ったことはどのようなことですか。（当てはまるものすべてに○）

支援を行う中で、特に悩んだり困ったことについては、「支援したいが、その方法がよくわからなかった」が31.6%で最も高く、次いで「支援するための体制が整っていなかった」(21.1%)、「相談をつなげる機関がわからなかった」(17.5%)と続いています。



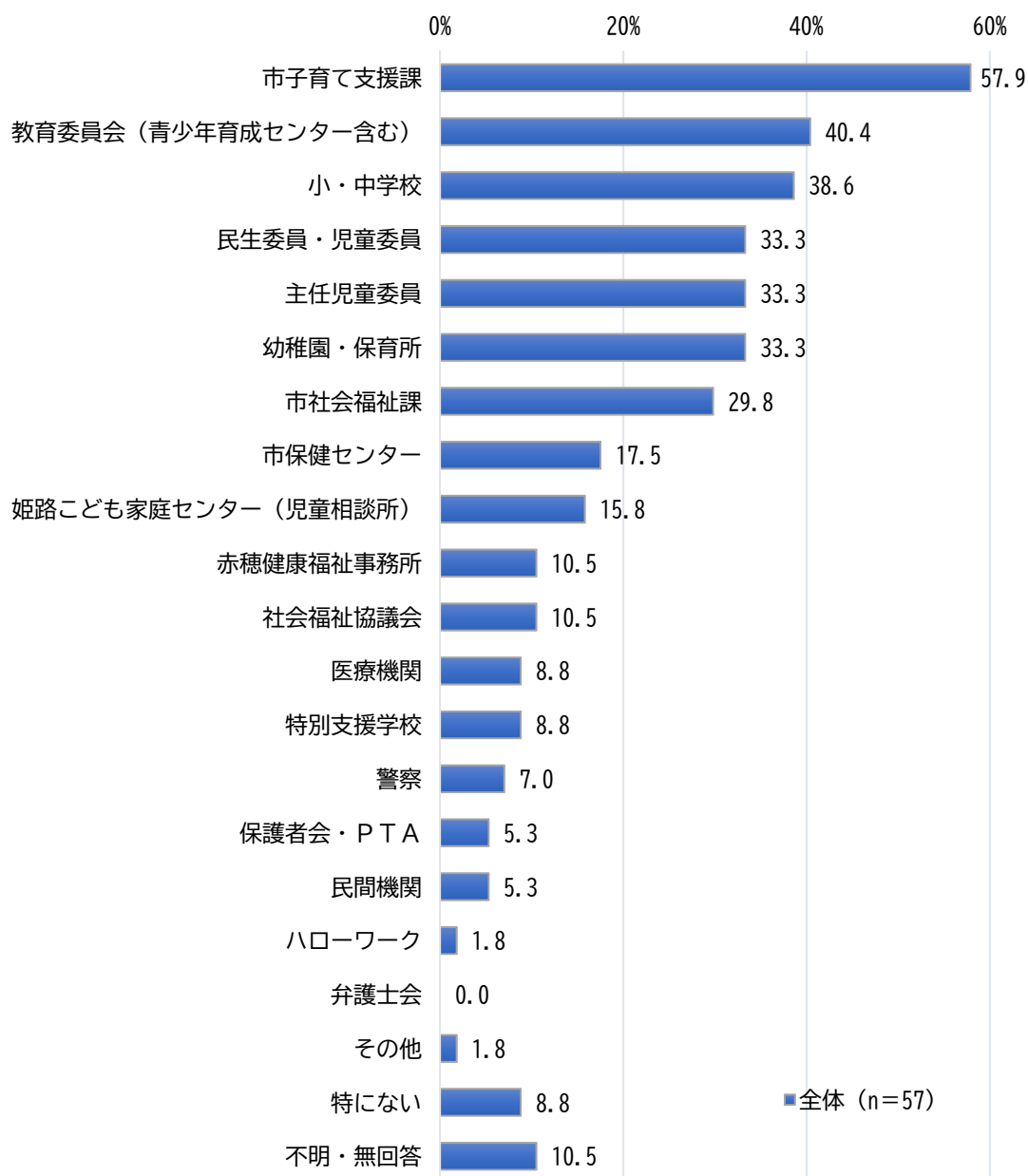
その他の回答

- ・ 関係機関との連絡が取りにくかった。保育所での様子は聞かれるが、関係機関が保護者とどのような面談をしたのかは聞かないと教えてもらえない。
- ・ 過去にヤングケアラーと思っても、保護者が認めていないので、話をすることや支援をすることは難しかった。
- ・ 保護者がその時何に一番困っているのかを理解することができなかった。
- ・ つながることではあるが、ただ、今、与えたり手出しをしたりすることが望ましい支援なのか、その家庭が自立にむけて継続的に救われる支援として何ができるかに悩む。
- ・ 該当者への支援を行ったことがないので、悩んだり困ったりしたことはありません。
- ・ その都度、学校園（組織）として、できる限りの対応をし、保護者や子どもが少しでも安心して学校生活を送ることができるよう努めた。
- ・ こちらは、支援したい・支援しようとしているが、保護者の方があまり望んでいない。
- ・ 既に他機関には相談済みで、「支援策がない」「断られた」と言われ、紹介できる相談先がなかった
- ・ 食料や制度の支援ではなく、用途が不明確な「お金」を希望された
- ・ 他機関と情報共有すると、内容が異なっていた（本心を打ち明けていない（打ち明けられていない））
- ・ 保護者の確認ミスや自己責任であっても、「対応が遅い」「何とかしろ」という要求があった。
- ・ 養育能力が低い家庭への児に必要な訪問頻度
- ・ 子どもがヤングケアラーの状態となっていることに対し保護者の理解が得られなかった（現状の認識のなさ）。
- ・ 祖父母などは話を聞いてくれるが、息子（児童の父）たちの考えなのでと言われることもあった。
- ・ 初め、支援を拒否されることがあったが、次第に信頼関係ができ、困り事を言ってくれるようになった（時間がかかった）。
- ・ 訪問時、保護者との会話があいさつくらいで相談には、ならなかった。

問 11

困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーに対する支援を行う上で、連携している機関や団体などがありますか。（当てはまるものすべてに○）

支援を行う上で、連携している機関や団体などについては、「市子育て支援課」が57.9%で最も高く、次いで「教育委員会（青少年育成センター含む）」（40.4%）、「小・中学校」（38.6%）と続いています。



民間機関の回答

・こども食堂、フードバンク